

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

空中給油機10機配備ゆるすな 平和・憲法・人権まもって 市議会9月定例会 議員団3人が奮闘

戦後80年 核兵器禁止条約 極右排外主義への認識問う たちばなふみ市議会派代表質問

9月9日に開会した松江市議会では16日から18日にかけて一般質問が行われ、初日は会派代表質問が行われました。



質問する たちばなふみ市議会議員

たちばなふみ市議会が代表質問に立ち、(1)戦後・被ばく80年 憲法生かす平和な松江、(2)スポーツ振興と暴力の根絶について、(3)猛暑対策・市民生活支援、(4)こども誰でも通園制度、(5)島根原発福島事故の教訓、(6)水道料金値上げ・市長の政治姿勢を問う、の6項目を質問しました。項目(1)について報告します。

たちばな市議は、戦後・被ばく80年の夏、自身も長崎を訪れたことにふれ「松江市は、平成18年10月に『地球環境保全と平和都市

宣言』平成22年10月に『平和首長会議』に加盟しているが、平和首長会議は一刻も早く核兵器禁止条約に署名・批准を政府に要請している」と指摘し「松江市長も政府の核抑止論を容認する政府の立場ではなく平和首長会議の立場に立つべき」と質しました。

また、7月の参議院選挙で過去の侵略戦争を美化し「外国人の犯罪が多い」などのウソを拡散する極右・排外主義の流れが現れたとして「外国人への敵意と差別をあおり、社会に差別と分断を広げることとは、民主主義と人権を著しく踏みにじる行為だ。小泉八雲氏に学び『モットーは寛容』を目標に掲げている松江市は、国籍・年齢・性別や性自認、障がいの有無などにかかわらず多様性が尊重され自分らし

ガザ虐殺とめよう 市民が松江駅前で緊急集会

9月22日、JR松江駅前で「パレスチナ緊急連帯行動・ガザの虐殺とめよう」との緊急集会が行われました。



プラカードを掲げアピールする市民ら

新日本婦人の会島根県本部としまね労連が呼びかけたもので、23人の市民が集い「STOP ジェノサイド」「ガザのこどもたちを殺すな」などのプラカードを掲げてスタンディングアピールが行われました。しまね労連事務局長徳永和洋氏は「イスラエル政府がガザ地区で行った地上侵襲でガザ地区では6万5千人の市民の命が奪われ、人道支援活動の規制により全市民が飢餓状態だ」として「この世紀の蛮

行を一刻も早くやめなければならぬ」「イスラエル政府は、ガザ地区での軍事作戦を中止し、イスラエル軍をガザ地区から速やかに撤退させること、ガザ住民への国際的な人道支援と援助を妨害せず、全面的に協力することをイスラエル政府に求める」とし、参加者に「ストップ・ジェノサイド・イン・ガザ」虐殺と占領をやめ、中東に公正な平和を実現するために、ともに力をあわせましょう」と訴えました。

集会参加者一同で抗議文を確認し、同日イスラエル大使館に送りました。

2月に県から意見照会がなされ、松江市は4月から8月にかけて八束、東出雲、竹矢、美保関、本庄で地元説明会を開催。松江市議会では6月17日の全員協議会で防衛省が説明を行い、今般、地元意見の報告を市長が行い、各会派の意見を求めました。

たちばなふみ市議が共産党



危険な空中給油機

美保基地 空中給油機10機配備 市長が同意 松江市議会全員協議会 共産党市議団は反対

く過ぎせる、多文化共生社会をめざしていることを内外に示すべき」と訴え、過去の侵略戦争や排外主義に対する市長の認識を質しました。

見解を述べるに留まりました。また外国人政策については「社会における偏見や差別意識を助長させる外国人にたいする誹謗中傷は容認できない。あらゆる差別を根絶し、誰もが活躍できる社会を創造すべく人権啓発を推進していく」などと答弁しました。

市議団を代表して討論に立ち「防衛省の理由説明では周辺空域等でねばり強く戦闘を継続するためとあり、明らかに戦争への参加を前提としている」「憲法9条を掲げる日本は軍備拡張ではなく周辺国の緊張緩和に貢献すべき」「すでにC2大型輸送機、空中給油機4機が地元八束の住宅、学校や保育園の上空で訓練を行っており、部品落下や米軍戦闘機の緊急着陸、空中給油機のトラブルで住民は怖い思いをしている」「追加配備で10機ともなればトラブルや危険は必然的に増す。到底認めることはできない」と反対意見を述べました。

共産党市議団を除く全ての会派は追加配備を容認しました。地元意見では追加配備に理解は示しつつも、部品落下や航空機事故の懸念がいずれからも出されています。安来市はすでに同意しており、今後は島根県が防衛省に回答することとなります。